

No. 507【2022年6月3日配信】

松本美枝子個展「具にみる」(担当:村上亜弥)

こんにちは。歴史資料室の村上亜弥です。

現在、青森公立大学国際芸術センター青森(ACAC)では松本美枝子個展「具^{つぶさ}にみる」が開催されています。写真家・美術家の松本美枝子さんはACACが行うアーティスト・イン・レジデンスプログラムの招聘アーティストであり、令和3(2021)年度に計3か月間、青森県内でのリサーチを行って作品を制作しました。



松本美枝子個展「具にみる」が開催された国際芸術センター青森

個展の開催に合わせて4月17日(日曜日)には松本さんと弘前大学教育学部の小岩直人教授による街歩きツアー「具に歩く」が行われ、私も参加しました。このツアーでは浜堤^{ひんてい}という地形に注目して青森市の中心部を歩きました。浜堤とは、海岸の砂礫^{されき}(砂や小石)が波の力で陸側に打ち上げられることで形成される堤防状の高まりのことで、青森市の中心部にも浜堤による高低差を感じることができる場所があります。ツアーではリンクステーションホール青森(青森市文化会館)と青森中央郵便局の間の道を北へ向かって歩きながら、浜堤による高低差を確認しました。



浜堤による高低差を感じることができる場所
(堤町1丁目)

また、ツアーのスタート地点となった文化会館では、敷地内にある記念碑「若き日」の前で松本さんのお話を伺いました。この碑は青森県女子師範学校（弘前大学教育学部の前身校の一つ）と青森高等女学校（青森高校の前身校の一つ）の同窓生が建立したものです。文化会館がある場所には、かつて青森県女子師範学校（昭和18年4月に官立青森師範学校女子部と改称）と青森高等女学校の校舎がありましたが、昭和20年7月28日の空襲により校舎を焼失し、官立青森師範学校は弘前市へと移転することになりました。

その後、昭和24年5月に弘前高等学校・青森師範学校・青森医学専門学校を基盤とする弘前大学が開学しました。青森医学専門学校も開校当初は青森市に校舎を置いていましたが、空襲で附属病院などを失い、弘前市へ移転しています。松本さんはこの「空襲被害による学校機能移転」というできごとに関心を寄せ、作品を制作したといいます。その作品が「46番目の街」です。写真と空襲の遺物、そして学校にまつわる楽曲を組み合わせしており、空襲によって青森の街が受けた傷の大きさを感ずることができます。



記念碑「若き日」
(青森市文化会館前)

個展「具にみる」は6つの作品によって構成されています。作品には日露戦争の際に出征兵士が建てた墓がある蓬田村の玉松台や、日本海中部沖地震で津波被害を受けた十三湖など、さまざまな歴史を持つ場所が取り上げられています。この個展は6月19日（日曜日）まで開催されていますので、ぜひ足を運んでいただければと思います。